

広州日本人学校便り

～平成26年12月号～



～桜の植樹と阪本敦さん講演会～

11月6日(木)広州日本商工会30周年の関連行事が、日本人学校を会場に実施されました。

広州では4月になり入学式を迎えても、春を感じさせるような桜の開花を見ることができません。このことに一抹の寂しさを覚えていた学校に桜を咲かせようということで今回の企画がスタートしました。実は、敷地内にはすでに数本の桜の木が植樹されています。これも記念樹なのですが、広州の気候に合わないのか2～3月頃に数輪の花を咲かせるのみでほとんど気づかれない存在です。今回は、その反省も生かして広州においても花が咲くような樹種を慎重に選んだとのことでした。

さて、6日は商工会の田中会長をはじめ、多くの関係者が参列して植樹祭が行われました。日本人学校からは、1年生72名と6年生46名が学校を代表して参列しました。式典の後、代表植樹を田中会長、和田PTA会長、小幡校長、そして子どもの代表5名によって行いました。その後、参列した子どもたちも各所に分かれて植樹作業を行う予定だったのですが、なんとあいにくの雨模様となり、作業は中止となりました。実施事務局も大変残念だったことと思いますが、意外にももっと残念に思っていたのが子どもたちでした。大人が思う以上に楽しみにしていたようです。

さて、同日午後からは阪本敦さんが「なりたい自分になろう。なりたい自分とお話ししよう」をテーマに中学生80名に講演をしてくださいました。阪本さんは、中学生を対象とした講演については初めてだったとのこと準備を一ヶ月ほど前から入念にされていたようです。大変有り難いことです。講演内容は、ご自身の子ども時代の経験を織り交ぜ、またトヨタの創業者豊田佐吉氏の発現の動機となったエピソードを加味して、未来を築こうとしている中学生にぴったりのものでした。中学生にとっては、青春まっただ中に身におく中、自分を見失わず、そして今与えられた環境でより積極的・能動的に生活するためのエールとなりました。家に帰ってから講演について親と話し合った子もいたようです。



ところで、6日は雨天のため中止となってしまった桜の植樹ですが、子どもたちが余りに残念がるので、担当の先生方が相談して翌7日業間休みを使って植樹する段取りを取ってくれました。桜は20本有りますので118名を20班に分け、5～6人のグループで植樹を行いました。掘られた穴に苗木を入れ土をかけると、丈夫に育つように願いを込めて水をたっぷりかけました。作業は、6年生が1年生の面倒をよく見ながら無事に終了しました。早ければ来春にも花をつけるとのことです。体育館の脇に植えられた桜が満開になったら桜並木がみられそうです。

